

2000年の時間を超えて とき 唐古・鍵ムラからのたより



い せき はつ けん 遺跡の発見

唐古・鍵遺跡はどのようにして
発見されたのでしょうか。

《土器の底の粉あと》右の写真は、
唐古・鍵遺跡で見つかった弥生土
器の底の部分です。粉粒のあとが
はっきりとついています。この土
器を作った時、まだやわらかい粘
土に粉粒がくっついて、そのまま
焼かれて固まっています。実は、
この粉あとが、弥生時代とはどの
ような時代だったのかということ



土器の底についた粉あと



森本六爾(1903~1936)



地元の飯田松次郎・恒男親子が作った
唐古・鍵遺跡の本(1929年)

を考える大きなきっかけを作った
のです。

《森本六爾の説》大正から昭和の
始めにかけて、桜井市出身の考古
学者・森本六爾は、唐古池周辺で
拾い集めた弥生土器の底に、粉の
あとがついているものがあること
に注目しました。「この土器が作
られたときには、稲が栽培されて
いたんだ！」そう考えた六爾は、
まだ実態がはっきりしていなかっ
た弥生時代について、「米作りを
始めた時代である」という説をた
てました。しかし、この説は証明
されないまま、1936(昭和11)年、
六爾は33才の若さでこの世を去り
ました。



唐古池の発掘(1937)と末永雅雄博士(1897~1991)

《唐古池の大発見》六爾の死後ま
もなく、戦争への足音が高まるな
がで、奈良から橿原神宮へ通じる
国道(今の24号線)が建設される
ことになり、工事には唐古池の土
砂も使われることになりました。
池の底を掘ったところ大量の弥生
土器が発見され、末永雅雄らによ
る発掘調査が行われました。

発掘は1936年12月から翌年3月ま
で、工事に追いやられるように
あわただしく行われましたが、調
査の成果は歴史に残る大発見でし
た。木製の鍬や鋤、炭のようにな

った米、石包丁など米作りを証明
する物が、日本で初めて大量に出土
したのです。その他にも、様々な
出土品によって、初めて弥生時
代の人々の生活を知ることができます。

戦後、唐古・鍵遺跡は、何回も
発掘調査を行い、日本の弥生時代
を研究する上ではなくてはならない
重要な遺跡となったのです。

森本六爾が、唐古池で拾った土
器から考えた説は、正しかったの
です。

ムラをつくる

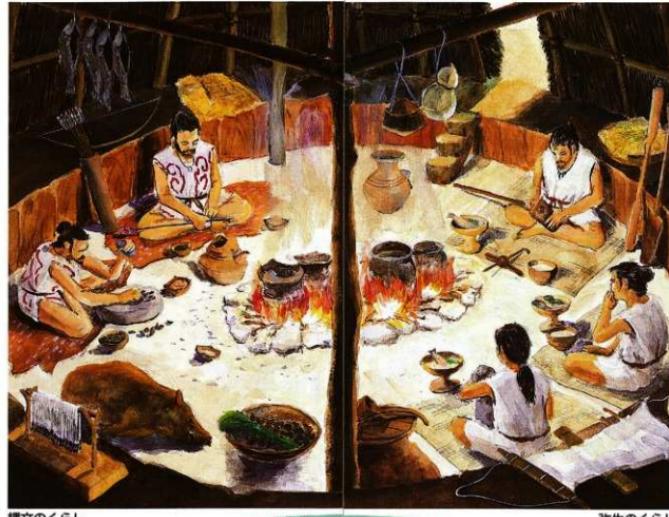
唐古・鍵ムラはどのようにして誕生したのでしょうか。

『最初の弥生集落』今から2400年前、中国大陆から新天地を求めて朝鮮半島の南部や北部九州に多くの人々がやってきました。その人々は、稻作などの新しい技術や習慣、宗教などをもって、新しい土地に住み着きました。そして、その土地の縄文人と交わりながら、新しい

農耕の時代を作りました。さらに一部の人たちは、瀬戸内海を東へ東へと進み、大阪湾に入り、さらに大和川をさかのぼり、唐古・鍵の地に到着しました。この土地は、米作りをするには適した土地で、奈良盆地で最初に作られた弥生集落となりました。



復顔された2200年前の弥生人



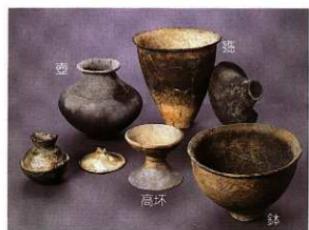
縄文のくらし
弥生のくらし

弥生のくらし

弥生時代になってどのように生活は変わったのでしょうか。

『新しい技術』縄文時代のくらしは、イノシシやシカを捕り、あるいはトチやクリなどの木の実を探る自然の中で暮らす生活でした。これに対し、弥生時代は春には水田を耕し、糞をまき、秋に米を取り入れするという米作りを中心とした生活になったのです。米作り

は、土器の形も変えました。米を蓄える「壺」、煮炊きする「高坏」、「鉢」など様々な形の土器が作られるようになりました。また、鋤や鎌など木の農具、穂摘み具や斧など石の道具、機織りの道具など、稻作の技術とともに新しい道具も伝わり、生活もすっかり変わりました。



最初に使われた弥生の土器



機織りの道具

米をつくる

弥生時代には、どのようにして米づくりをおこなっていたのでしょうか。

《人力による米作り》 唐古・鍵ムラの人々はどのように米作りをおこなっていたのでしょうか。現在のような機械はまったくありません。牛や馬さえ弥生時代にはいなかつたようです。すべてを人の力にたよる農作業では、ムラの人々がたがいに協力し合うことが何より大切でした。

《早春・田起こし》 冬の間手つかず水田では、春の始めに田起こしが行われます。水田は、地形にあわせて小さく区切られ、形も様々

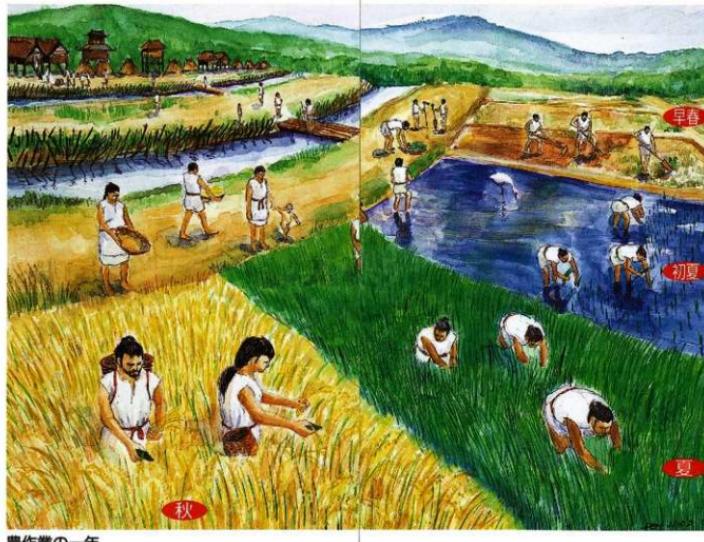


カシの木で作られた鎌



稻穂をつみとる石臼

です。人々が手にしているのは、鎌や鋤です。現在のものと形はほとんど同じですが、刃の先まですべて木製です。弥生時代には、鉄はたいへん貴重なものなので、農具にはほとんど使わず、木を削る小刀などに使っていました。



《初夏・田植え》 梅雨になって水田に水が入ると田植えが始まります。20~30cmに育った苗を、数本ずつ手で規則正しく植えていきます。人力で浅くしか耕せない水田では、雑草がものすごくはえてきます。水田の草取りは夏の間に統けられ、大変な仕事でした。

《秋・取り入れ》 秋になり、黄金色の稲穂がたれるようになると、取り入れが始まります。弥生時代

の取り入れは、石臼で穂首だけを1本1本つみとります。つみとった稲穂は、束にして藁でくくり、乾燥させたあと高床倉庫で貯蔵されます。米を食べるときは、必要な量を穂のまま木の臼に入れ、木の堅杵について脱穀し、箕で米だけ選り分けます。

《不安定な米作り》 始まったばかりの米作りは、収穫量も少なく、台風や害虫の被害を受けたりすると、ひとたまりもありません。人々は、大自然の力を神の力と考え、豊作を神に祈りました。



溝から出土した箕



炭になった穂束

ムラのまつり

唐古・鍵ムラでは、どのようなまつりをおこなっていたでしょう。

《まつりを司る人》弥生時代の人々は、自然の中の様々なものに対して神の力を感じ、いのり、まつりをおこないました。なかでも銅鐸は、神がやどるものであり不吉なものを追い払う最も重要なまつりの道具でした。弥生土器には、戈と盾をもつ戦士が戦いのまねをする光景やまつりの中心になる女性が鳥の格好をして両手を擧げる場面が描かれています。弥生時代の

人々は季節ごとに稻作のまつりを大事におこなっていました。



戈と盾をもつ戦士(清水屋遺跡)



まつりのようす

どうたく 銅鐸をつくるムラ

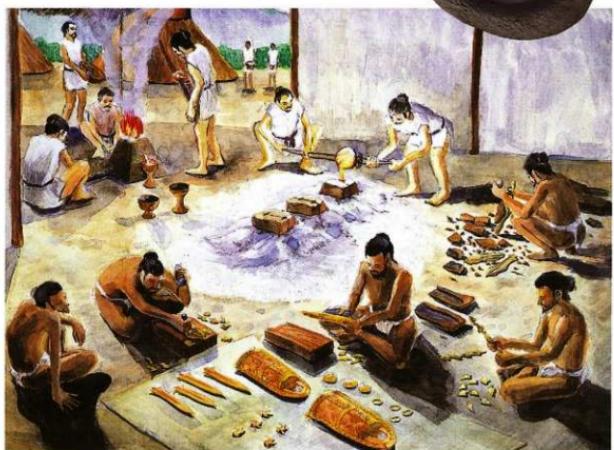
銅鐸はどのようにして作られたでしょう。

《最先端の技術》唐古・鍵ムラの東南部の一画に特別な人々が住んでいました。この人たちは、稻作をする人たちと違い、まつりに使う銅鐸など青銅器をつくる高度な技術をもった人達でした。青銅器はおもに銅と錫を溶かして作りますが、鉛も混ぜました。青銅器を作るには、砂岩の鋳型に形や文様を彫り込んで鋳型とします。その鋳型の中に、ドロドロに溶けた青

銅を流し込むのです。唐古・鍵ムラでは、このような石製の鋳型のほか新しい技術である土製の鋳型も採用されました。この土製の鋳型では、大小の銅鐸・銅戈・銅鎌・銅輪などの青銅器、ガラス玉が作られました。



銅鐸の石の鋳型



青銅器をつくる工房

こう りゅう ムラの交流

唐古・鍵ムラでは、どこの地域とどのような交流をしていたのでしょうか。

《にぎやかな市》 唐古・鍵ムラは奈良盆地のほぼ中央にあり、大阪湾から大和川をさかのぼってきて最初にたどり着くムラです。このため、多くの人々が行き交い、各



唐古・鍵遺跡で出土した海産物（クジラ・ハモなど）



鍵鋤をとる土器

大阪府西部

地から色々な品物が集まり、新しい知識や技術もたくさんもたらされました。唐古・鍵遺跡では、大阪府西部や滋賀県南部、三重県から愛知県西部、岡山県南部など各



岡山県南部



和歌山県北部

地で作られた土器、また、アカニシやウニ、ハモなどの海産物がたくさん出土しています。ムラの一画には、各地から来た人々が集まる場所があり、そこでは瀬戸内海

を通じて西方ものや笠置山地を越えて伊勢湾岸地域など東方の特産品が並べられ、にぎやかな市が開かれていたことでしょう。

新潟県東部

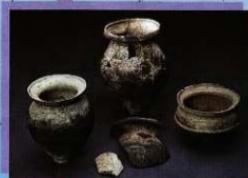
長野県北部



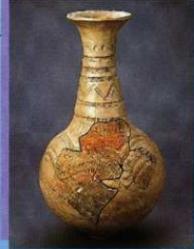
ヒシの勾玉



愛知県西部



滋賀県東



静岡県西部～長野県南部

唐古・鍵遺跡に運ばれた品物

まも ムラを守る

弥生時代の戦いはどのようなものだったのでしょうか。

《武器の発達》米作りの生活が始まると一つの場所に長く住み続けるようになり、水田などの土地が大変重要になってきました。また、

米などの食料も蓄えられるようになり、それらを奪うような戦いも多くあったでしょう。二上山でとれるサヌカイトという非常に堅く

て鋭い刃になる石を使い、槍や剣、鎌などの戦いのための武器もたくさん作されました。

《環濠を掘る》ムラを敵から守るためにムラのまわりには大規模な濠が掘られるようになりました。唐古・鍵ムラでは、幅5~8mほどの環濠が、5~6条もめぐらされま

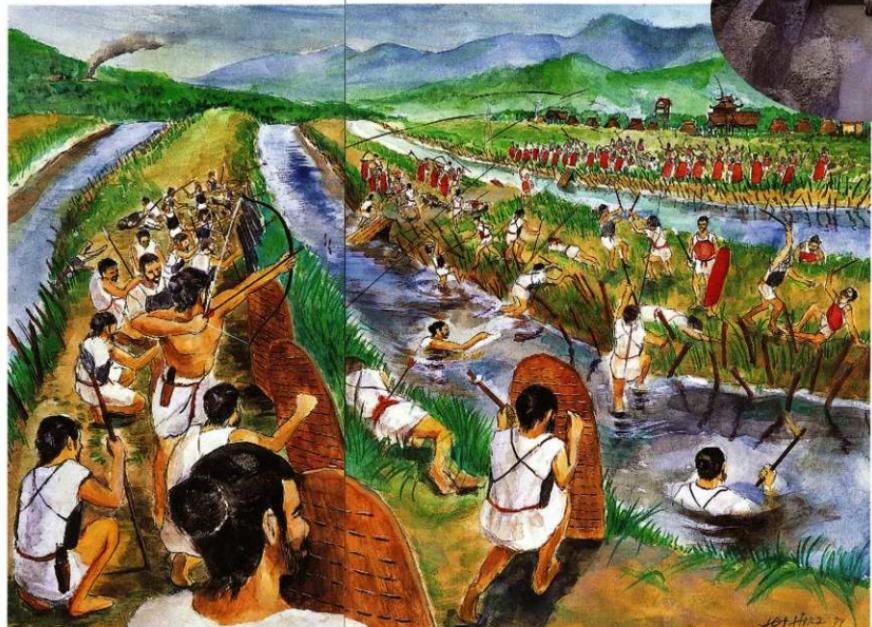
した。このような環濠は、敵からムラを守るだけでなく、洪水などの災害を防ぎ、また、平和な時には物を舟で運ぶための運河としての役目も果たしました。



発掘された大きな濠



のこぎりの刃のような石の剣

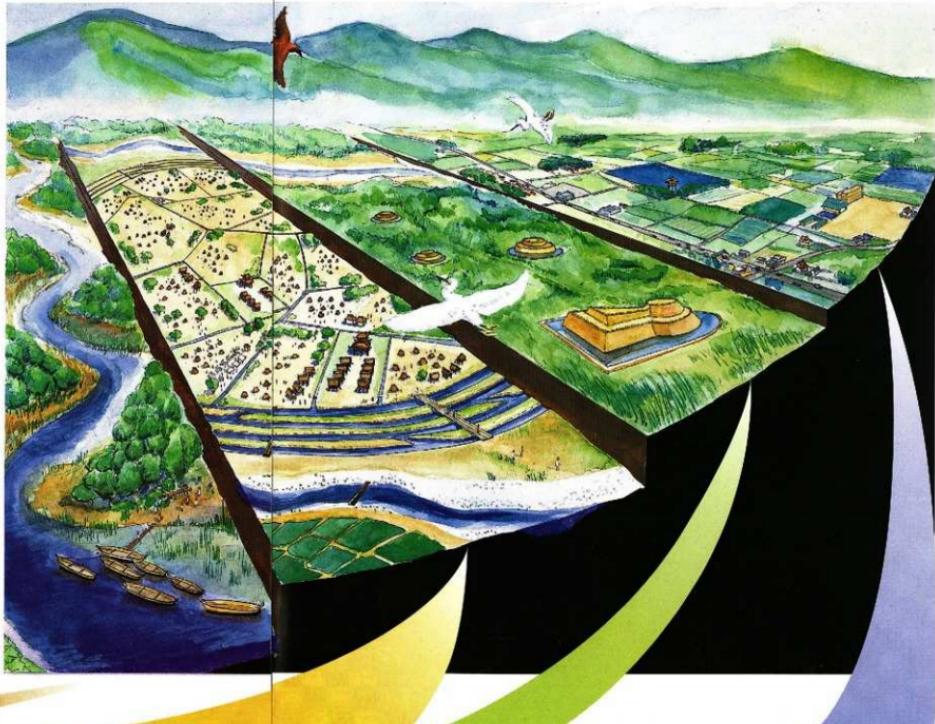


戦いのようす

私たちの遺産

《水田の下に眠る弥生遺跡》 今から、2400年前、唐古・鍵の地に第1歩を残した數十人の弥生人たちがその後700年にわたって近畿地方で一番大きな集落を作ることになりました。ムラが消えた後、古墳が造られ、そして平安時代から室町時代には有力者の館が造されました。今、そのムラは、たんぼの下、約50cmに眠っています。私たちは、この唐古・鍵の土地に刻まれた2400年におよぶ歴史を将来に残していく義務をもっています。

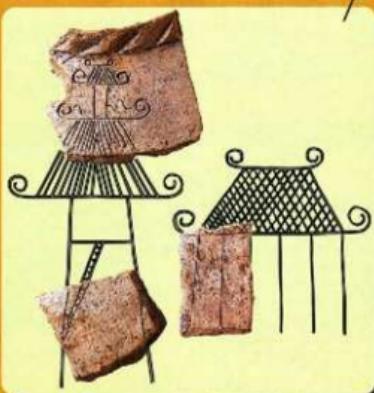
《国の史跡》 平成11年1月、弥生時代を代表する環濠集落である唐古・鍵遺跡を将来にわたって保存していくため、国の史跡に指定されました。今後は、この歴史遺産を使って、田原本町は遺跡公園として整備し、弥生時代を体験できるような施設を計画しています。近い将来、この地に立てば、2000年前にタイムスリップした弥生人の自分をみることができるでしょう。



縄文時代晚期	弥生時代前期	弥生時代中期	弥生時代後期	古墳時代前期	古墳時代中・後期	平安～室町時代	江戸時代	現代
<ul style="list-style-type: none"> 原野・森が広がる。 凸文土器 	<ul style="list-style-type: none"> 小高い3ヶ所に人が住み始める。 木屋を水濱で貯蔵する穴が掘られる。 大型建物が建てられる。 彩文土器 	<ul style="list-style-type: none"> 大環濠が掘削され、3つのムラが一つになる。 大環濠が洪水で埋没する。 網障が作られる。 後陶絵画土器 	<ul style="list-style-type: none"> 再び、環濠が張られる。 井戸のまわりが盛ん。 環濠が埋没する。 隨頭形土器製品 	<ul style="list-style-type: none"> 井戸や濠が掘られ、ムラは維持される。 刻みのある鹿角・丹波亞 	<ul style="list-style-type: none"> 古墳がつくられる。 大型井戸が掘られる。 椅子・埴輪 	<ul style="list-style-type: none"> 有力者の館が造られる。 耕・鉢 	<ul style="list-style-type: none"> 唐古池・鍵池が作られる。 遺跡が水田となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 北小学校・幼稚園が建築される。

唐古・鍵遺跡の移り変わり

弥生人が描いた絵画



塔閣と大型建物

田原本の遺跡
唐古・健遺跡Vol.3概説編2
2000年の時間を超えて
唐古・健ムラからのたより
●2000年11月30日●
編集・発行 田原本町教育委員会
〒636-0325 奈良県磯城郡田原本町926-1
TEL.07443-2-4404

写真提供:森本君子 作画:大山浩史
文:石橋源一郎・藤田三郎



スッポン